

半導体漫遊記

316

湯之上隆

半導体の国際学会VLSIシンポジウムが2023年6月11日、16日に、京都リーガロイヤルホテルで開催される。それに先立って4月25日午前10〜12時に記者会見がリモートで行われた。

VLSI2023では投稿論文数が6322件、採択論文数は212件、採択率は34%だった。ISSCC(回路)、IEDM(デバイス)およびVLSI(回路とデバイス)を半導体の3大国際学会と呼ぶが、どれも論文採択率が30%台である。今年のVLSI2023の採択率も例年通りであり、狭き門となった。

VLSIシンポジウムでは、デバイス分野のTechnologyと回路分野のCircuitsが同時開催される。Technologyでは投稿論文数が273件、採択論文数が89件、採択率が33%だった。またCircuitryでも機関別の論文採択率ランキングを発表することに

なっている。そこで本稿ではTechnologyおよびCircuitryの採択論文数の合計数が359件、採択論文数が123件、採択率が34%だった。このように3大国際学会の一つであるVLSIシンポジウムは論文採択率が厳しい地域および企業や大学などの機関の競争力を図る指針の一つとなる。

まずTechnologyでは採択論文数が高い順に1位が欧州imec(11件)、2位がシンガポール国立大学(10件)、3位がサムスン電子(8件)、4位が国立台湾大学と

Circuitryでは投稿論文数が359件、採択論文数が123件、採択率が34%だった。このように3大国際学会の一つであるVLSIシンポジウムは論文採択率が厳しい地域および企業や大学などの機関の競争力を図る指針の一つとなる。

まずTechnologyでは採択論文数が高い順に1位が欧州imec(11件)、2位がシンガポール国立大学(10件)、3位がサムスン電子(8件)、4位が国立台湾大学と

Circuitryでは投稿論文数が359件、採択論文数が123件、採択率が34%だった。このように3大国際学会の一つであるVLSIシンポジウムは論文採択率が厳しい地域および企業や大学などの機関の競争力を図る指針の一つとなる。

□テクノロジー □回路

シンガポール国立大学 1位	10	6	16
Samsung(韓国) 2位	8	7	15
KAIST(韓国) 3位	4	9	13
imec(欧州) 4位	11	0	11
浦項工科大学校(韓国) 5位	3	4	7
Intel(米国) 6位	2	4	6
台湾国立大学(台湾) 7位	5	0	5
TSMC(台湾) 7位	5	0	5
ソニー(日本) 7位	2	3	5
ミシガン大学(米国) 7位	5	0	5
清華大学(中国) 11位	4	0	4
東京工業大学(日本) 11位	4	0	4

シンガポール国立大学 1位	10	6	16
Samsung(韓国) 2位	8	7	15
KAIST(韓国) 3位	4	9	13
imec(欧州) 4位	11	0	11
浦項工科大学校(韓国) 5位	3	4	7
Intel(米国) 6位	2	4	6
台湾国立大学(台湾) 7位	5	0	5
TSMC(台湾) 7位	5	0	5
ソニー(日本) 7位	2	3	5
ミシガン大学(米国) 7位	5	0	5
清華大学(中国) 11位	4	0	4
東京工業大学(日本) 11位	4	0	4

2023年のVLSIシンポジウムにおける採択論文数の機関別ランキング

出所:VLSIシンポジウムの記者会見(4月25日)の資料を基に筆者作成

今までの記者会見ではTechnologyは韓国国立大学K AIST(4件)となっていた。日本勢はソニー、東大、産総研の2件が最多であった。最先端の設備を基に、半導体のR&Dを推進している欧州のソニー、imecが1位になるのは当然と思う。またメモリもファウンドリーも手が合算について、機関別のランキングをグラフ

VLSIシンポジウムで総合の採択論文数のランキングを算出したのは初めてである。最もアクティビティの高い機関ということになる。シンガポール国立大学の競争力の源泉がどこにあるのか、6月11日から始まる学会に参加して明らかにしたいと思う。(微細加工研究所・所長)

国際学会VLSI・採択論文数 シンガポール国立大学が1位